

令和4年度 第16回 病院経営戦略会議報告

日時 令和4年11月15日（火） 13時00分～13時30分
場所 3階講堂会議室1・2
出席者 堀之内院長 小山副院長 増田副院長 安西看護部長
堀越病院経営部長 高橋病院総務課長 三上病院施設管理課長
富田病院財務課長 増田医事課長 鈴木情報管理室室長
日向患者支援センター副所長
事務局 坂口病院総務課課長補佐

内 容

◎高橋病院総務課長

【報告事項】

（時間外勤務の状況（R4.10月実績）について）

- ・医師の平均は50時間で前月より1時間増、80時間超えは10名で前月から2名減。
- ・歯科医師の平均は59時間で、前月から9時間の増。
- ・専攻医の平均は78時間で前月より8時間増、80時間超えは26名で前月から11名増。歯科専攻医は、42時間で、前月から6時間の減。
- ・コメディカルの平均は29時間で、前月から1時間の増。
- ・看護部の平均は前月同様8時間。
- ・事務の平均は37時間で前月から3時間の減。

◎三上病院施設管理課長

【報告事項】

（旧周産期棟改修に係る12月議会の対応について）

- ・建築工事の契約金額が3億円を超えていることから、変更契約について保健福祉委員会へ報告を行う。

◎富田病院財務課長

【報告事項】

（令和4年12月定例会提出議案（補正予算）について）

- ・11月30日開会予定の12月議会に提出する補正予算について、その概要を報告する。

- ・ 3条予算については、外来収益は一日平均患者数が当初の見込みを上回るため、補正を行う。
- ・ 費用については、薬品費の不足と貯蔵品に係る控除外対象外消費税の不足額について、補正を行う。また、エネルギー価格高騰に伴う光熱水費の不足額について補正を行う。
- ・ 4条予算については、旧病棟解体工事に伴う工事費について補正を行う。

◎日向患者支援センター副所長

【報告事項】

(地域連携訪問活動実績報告(10月分)について)

- ・ 10月に実施した地域連携訪問活動についてであるが、病診連携で19件、病病連携で3件訪問を行った。
- ・ 病診連携のうち10件について医師に同行いただいた。また、医師だけで訪問していただいた件数が9件あるが、これはすべて歯科口腔外科の清水部長による訪問となっている。
- ・ 病病連携のうち2件は患者支援センターのMSWが回復期の病院に2件訪問した。残りの1件は共済病院への訪問で神吉部長・加藤部長・中野部長に同行していただいた。

◎旧周産期棟改修PT

(10月までの各WG進捗状況について)

- ・ 9月分及び10月分の進捗状況報告会については、定例会議の開催日に議会对応や保健所立入検査対応があったことから、書面開催とした。
- ・ 救急ワークステーションについては、消防局と使用範囲の面積、必要な管理経費等について協議し、決定した。
- ・ (仮称)スポーツクリニックについては、WG会議において、武田科長より診療内容の案や収益確保等の考え方について説明が行われた。また、10月の病院経営戦略会議において、患者数の見通しや収益の積算について報告し、協議した。
- ・ シミュレーションラボについては、部屋の使い方や運用方法について、関係部署と引き続き打合せを実施している。
- ・ 施設については、施設の鍵の運用について、フロアごとに確認している。
- ・ システム関係では、改修に係る仕様を固め、契約手続きの準備を行った。
 - 建物の名称についてどのように決めるのか。(堀之内院長)
 - 事務局から案を示し、病院経営戦略会議の場で決めることを想定している。なお、建物にセンターという名称は使用できないと保健所から伺っており、そのことを踏まえて名称を検討していくこととなる。(病院財務課長)

◎堀之内院長

・新型コロナウイルスの感染数が徐々に拡大し、埼玉県内の入院者数が700人を超えている状況。県の新型コロナ調整本部は、現在の新型コロナの感染状況を踏まえフェーズ4に移行する方向であるとの連絡があった。

→ フェーズ4であれば、当院は新型コロナ病床として51床準備することが想定される。現在の新型コロナウイルスの状況を踏まえ、当院としてどこまで対応するのか検討しなければと考えている。なお、当院の対応病床数を県に報告する必要がある。(病院施設管理課長)

→ フェーズ4への移行まで時間があるのであれば、適宜病床数を増やしていきたいと考えていた。当院では新型コロナ病床である8B病棟の患者数が増えており、それに対応する看護師の確保が必要なため手術枠の制限を行うなど厳しい状況である。また、病院全体では職員の就業制限者数も増えている。当院の新型コロナ対応の病床数を増やせば、地域医療へ与える影響も大きいと考えており、これらの状況を踏まえ、当院としての対応をどのようにしていくか検討していきたい。(堀之内院長)